

このたび、市では、教育に関わる広い分野において、市民の皆さんと取り組むにあたっての基本方針として、「高山市教育大綱（案）」を策定しました。教育大綱とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、全ての地方公共団体が策定するよう定められたもので、市においても、昨年2月に市長と市教育委員会による「高山市総合教育会議」を設置し、教育に関する課題や教育環境などについて議論を重ね、高山市教育大綱（案）としてまとめたものです。

教育大綱策定の考え方

総合教育会議では、教育現場が抱える課題や教育環境の整備などについて、地域との関わり、福祉・保健との関わり、キャリア教育、高校や大学との連携、食育や学校給食、文化・文化財、スポーツ、生涯学習など多岐にわたる視点から議論を進めてきました。

その中で、一人ひとりの子どもを妊娠期から自立まで継続的・横断的に支えることが大切であること、家庭、地域、保育園・幼稚園、学校、行政など社会全体で関わり合うことが子どもの育ちには不可欠であることが認識されました。

このことから「教育・文化」「福祉・保健」「産業・労働」など教育に関係する各分野を分けて考えるのではなく、同じ方向性を持ち、子どもの成長段階に応じてそれぞれの役割を果たすことが大切であると考えました。

そこで、高山市教育大綱を策定するにあたり、「これから子どもを産み育てていく時期」「遊びや人との関わりの中で人としての基礎を作り上げていく時期」「自ら主体的に学び成長していく時期」「社会の中で自らの脚で一人立ちしていく時期」という4つのライフステージに、子どもから大人まで生涯を通じて「豊かな人間性と創造性を高めるための環境の充実」という視点を加え、5つの視点でまとめました。

また、ともに関わるものにとっての道しるべとなるようなものが望ましいと考え、簡潔な表現としました。

総合教育会議での議論をふまえた基本方針の考え方

- ・ 妊娠期から社会人になるまでを通して、安心して子どもを産み育てられる環境を整え、高山に生まれて来てくれた子どもたちに希望ある未来をつくりたい。
- ・ 就学前の早い時期から一人ひとりの子どもに合った対応や継続した支援を行い、乳幼児期の子どもたちが、家庭、地域、保育園、幼稚園などにおいて、家族や身近な人たちに見守られながら絆と愛情を育み、人としての基礎を養うことが必要である。
- ・ 子どもの可能性を引き出す教育環境を整え、また不登校の子やその家族を地域で支える取り組みや、一人ひとりの居場所づくりをすすめ、児童生徒が、仲間とともに徳・知・体をバランス良く養い、生きる力を身につけることが大切である。
- ・ 地域の活性化や地域で活躍できる人材育成のためには、高校や大学との連携を強めながら、若者の地元へのU I Jターンを促進することが必要であり、若者が、地元へ貢献したいという志を持ち、また、社会の一員として活躍してもらえるような取り組みが一層求められる。
- ・ 大人も子どもも自分の地域の良さを学び、地域に誇りを持つことが地域の持続につながる。また、歴史文化、芸術、スポーツ、自然などに親しめる環境があることは、どの年代にとっても大切である。



ご意見をお寄せ
ください

市では、高山市教育大綱（案）に対するパブリックコメント（市民意見の募集）を行います。ぜひ皆さんのご意見をお寄せください。

■意見を提出できる方 市内在住・在勤の方、市内に事務所を有する方（法人・団体を含む）

■閲覧場所 市HP、企画課（本庁4階）、教育総務課（本庁3階）、市民コーナー（本庁1階）、各支所、市図書館「煥章館」、市民文化会館、ビッグアリーナ、女性青少年会館（休館日を除く各施設の開館時間内）

■提出方法 所定の様式に意見をご記入のうえ、2月1日（水）から3月2日（木）までに各窓口、郵送・FAX・MAIL（様式は閲覧場所にあるほか、市HPからもダウンロードできます）